

3.3 品目機種別の基準値

表 3.8～表 3.17に、品目機種ごとの基準値を示す。

表 3.8 家電製品の基準値

機種	分類	指標	基準値 1 (NAECA 基準値)	基準値 2 (エネルギースター基準値)	基準値 3 (エネルギースター基準値)	備考
家庭用冷蔵庫／冷凍庫	冷蔵庫及び冷凍冷蔵庫（手動霜取り式）	年間最大エネルギー消費量 (kWh/年)	8.82AV+248.4 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (7.938AV+223.56 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (7.497AV+211.14 以下)	<ul style="list-style-type: none"> NAECA (National Appliance Energy Conservation Act : 国家電気機器省エネルギー法) の基準よりも 10% 以上エネルギー効率が 高いことが必要。冷蔵庫の形式、容量等によって詳細基準は異なる。 AV (調整内容積 (ft³)) = (冷蔵室内容積) + 1.63 × (冷凍室内容積) 基準値 2 は 2003 年 1 月 1 日以降実施。 基準値 3 は 2004 年 1 月 1 日以降実施。
	冷凍冷蔵庫（半自動霜取り式）		8.82AV+248.4 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (7.938AV+223.56 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (7.497AV+211.14 以下)	
	冷凍冷蔵庫（自動霜取り式）上部冷凍室式：氷取出しドアなし、及びすべての冷蔵庫（自動霜取り式）		9.80AV+276 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (8.82AV+248.4 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (8.33AV+234.6 以下)	
	冷凍冷蔵庫（自動霜取り式）側部冷凍室式：氷取出しドアなし		4.91AV+507.5 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (4.419AV+456.75 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (4.1735AV+431.375 以下)	
	冷凍冷蔵庫（自動霜取り式）下部冷凍室式：氷取出しドアなし		4.60AV+459 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (4.14AV+413.1 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (3.91AV+390.15 以下)	
	冷凍冷蔵庫（自動霜取り式）上部冷凍室式：氷取出しドア付き		10.20AV+356 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (9.18AV+320.4 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (8.67AV+302.6 以下)	
	冷凍冷蔵庫（自動霜取り式）側部冷凍室：氷取出しドア付き		10.10AV+406 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (9.09AV+365.4 以下)	NAECA 基準より 15% 以上効率が 高い。 (8.585AV+345.1 以下)	
	アップライト（前開き型）冷凍庫（手動霜取り式）		7.55AV+258.3 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (6.795AV+232.47 以下)	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (6.795AV+232.47 以下)	

機種	分類	指標	基準値 1 (NAECA 基準値)	基準値 2 (エネルギースター基準値)	基準値 3 (エネルギースター基準値)	備考
家庭用冷蔵庫／冷凍庫	アップライト(前開き型) 冷凍庫(自動霜取り式)	年間最大エネルギー消費量(kWh/年)	12.43AV+326.1 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (11.187AV+293.49 以下)	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (11.187AV+293.49 以下)	<ul style="list-style-type: none"> ・ NAECA (National Appliance Energy Conservation Act : 国家電気機器省エネルギー法) の基準よりも 10% 以上エネルギー効率が 高いことが必要。冷蔵庫の形式、容量等によって詳細基準は異なる。 ・ AV (調整内容積(ft³)) = (冷蔵室内容積) + 1.63 × (冷凍室内容積) ・ 基準値 2 は 2003 年 1 月 1 日以降実施。 ・ 基準値 3 は 2004 年 1 月 1 日以降実施。
	チェスト(上開き型) 冷凍及びコンパクト型を除くすべての冷凍庫		9.88AV+143.7 以下	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (8.892AV+129.33 以下)	NAECA 基準より 10% 以上効率が 高い。 (8.892AV+129.33 以下)	
	コンパクト冷蔵庫及び冷凍冷蔵庫(手動霜取り式)		10.70AV+299 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (8.56AV+239.2 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (8.56AV+239.2 以下)	
	コンパクト冷凍冷蔵庫(半自動霜取り式)		7.00AV+398 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (5.6AV+318.4 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (5.6AV+318.4 以下)	
	コンパクト冷凍冷蔵庫(自動霜取り式) 上部冷凍室式、及びすべてのコンパクト冷蔵庫(自動霜取り式)		12.70AV+355 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (10.16AV+284 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (10.16AV+284 以下)	
	コンパクト冷凍冷蔵庫(自動霜取り式) 側部冷凍室式		7.60AV+501 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (6.08AV+400.8 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (6.08AV+400.8 以下)	
	コンパクト冷凍冷蔵庫(自動霜取り式) 下部冷凍室式		13.10AV+367 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (10.48AV+293.6 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (10.48AV+293.6 以下)	
	コンパクトアップライト(前開き型) 冷凍庫(手動霜取り式)		9.78AV+250.8 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (7.824AV+200.64 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (7.824AV+200.64 以下)	
	コンパクトアップライト(前開き型) 冷凍庫(自動霜取り式)		11.4AV+391 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (9.12AV+312.8 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (9.12AV+312.8 以下)	
	コンパクトチェスト(上開き型) 冷凍庫		10.45AV+152 以下	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (8.36AV+121.6 以下)	NAECA 基準より 20% 以上効率が 高い。 (8.36AV+121.6 以下)	

機種	分類	指標	基準値	備考
洗濯機	標準容量が 1.6 ft ³ 以上	MEF	1.26 以上 (2004/1/1 以降は 1.42 以上)	<ul style="list-style-type: none"> MEF (Modified Energy Factor : 修正エネルギー係数) : 洗濯機用に改定されたエネルギー係数。乾燥用エネルギーを加味したもの。定義式は米国連邦基準 (Federal Register 10 CFR Part430 II) に従う。
食器洗浄機	外形寸法幅が 22 インチ以上	EF	0.58 以上	<ul style="list-style-type: none"> EF (Energy Factor : エネルギー係数) : それぞれの食器洗浄機モデルに対して算出される数値のことで、消費者に対して異なる機種の効率を比較できるようにするために定められている。 食器洗浄機に対する EF は、1 年間での想定負荷を年間エネルギー消費量で割った値。
ルームエアコン ディショナ	冷房能力が 8,000 Btu/h 未満	EER	10.7 以上	<ul style="list-style-type: none"> EER(Energy Efficiency Ratio : エネルギー消費効率) : 機器の冷房能力を定格消費電力で割った数値 (冷房能力は Btu*/h, 定格消費電力は W の単位の数値を用いる)。 * Btu : British Thermal Unit (英国熱量単位)
	冷房能力が 8,000 Btu/h 以上 14,000 Btu/h 以下		10.8 以上	
	冷房能力が 14,000Btu/h 以上 20,000 Btu/h 以下		10.7 以上	
	冷房能力が 20,000Btu/h 以上		9.4 以上	
業務用冷蔵庫 /冷凍庫	冷蔵庫	1 日当 たりの エネル ギー 消費 量	0.10V+2.04kWh/日以下	<ul style="list-style-type: none"> V : 内容積 (ft³) AV (調整内容積) (ft³) = 1.63 × 冷凍室容積 + 冷蔵室容積
	冷凍庫		0.40V+1.38kWh/日以下	
	冷凍冷蔵庫		0.27AV-0.71kWh/日以下	
	アイスクリーム冷凍庫		0.39V+0.82kWh/日以下	
除湿機	製品容量が 10 リットル/日未満	EF	1.20 以上	<ul style="list-style-type: none"> EF (Energy Factor : エネルギー係数) : 除湿機に対する EF は、1kWh での除湿できる水量を示す。
	製品容量が 10 リットル/日以上 25 リットル/日未満		1.30 以上	
	製品容量が 25 リットル/日以上 35 リットル/日未満		1.50 以上	
	製品容量が 36 リットル/日以上 57 リットル/日未満		2.25 以上	

表 3.9 冷暖房機器の基準値

機種	分類	指標 1	基準値 1	指標 2	基準値 2	備考
温度制御式サーモスタット	同左	起床時の設定温度（暖房季節）	70°F 以下に設定。	起床時の設定温度（冷房季節）	78°F 以上に設定。	左記の温度設定がされ、以下の条件を満たす製品を出荷する必要がある。 ・ 平日用及び週末用等 2 つ以上の異なる期間を対象とした温度制御ができる。 ・ 起床時、日中、夕方、就寝時の少なくとも 4 つの異なる時間帯において異なる温度制御ができる。 ・ 日中及び夜間における温度設定は、少なくとも 8 時間は維持できるようにあらかじめ設定されている。
		日中の設定温度（暖房季節）*1	起床時または夕方の設定温度よりも 8°F 低く設定。	日中の設定温度（冷房季節）*1	起床時または夕方の設定温度よりも 7°F 高く設定。	
		夕方の設定温度（暖房季節）	70°F 以下に設定。	夕方の設定温度（冷房季節）	78°F 以上に設定。	
		就寝時の設定温度（暖房季節）*1	起床時または夕方の設定温度よりも 8°F 低く設定。	就寝時の設定温度（冷房季節）*1	起床時または夕方の設定温度よりも 4°F 高く設定。	
ボイラ	家庭用ボイラ	AFUE	85%以上	—	—	・ AFUE（Annual Fuel Utilization Efficiency：年間燃料使用効率） ・ Caafue（Combined Appliance Annual Fuel Utilization Efficiency：複合機器年間燃料使用効率）
	複合冷暖房空調機・温水暖房機	Caafue	85%以上	—	—	
機種	分類	指標 1	基準値 1	指標 2	基準値 2	備考
住宅用空気熱源ヒートポンプ／セントラルエアコンディショナ	室内器・室外器分割型	SEER	13 以上	EER	11 以上	・ HSPF（Heating Seasonal Performance Factor：暖房季節性能係数） ・ SEER（Seasonal Energy Efficiency Ratio：季節エネルギー消費効率） ・ EER（Energy Efficiency Ratio：エネルギー消費効率）
	一体型		12 以上		10.5 以上	
	暖房機能（ガス）と冷房機能（電気）を持つ一体型ユニット		12 以上		10.5 以上	
	分類	指標 3	基準値 3			
	室内器・室外器分割型	HSPF	8.0 以上			
一体型	7.6 以上					

*1 暖房季節においては、エネルギーの節約のため、日中（通常、家族が外出している時間帯）及び就寝時は、起床時や家族が自宅で団欒する夕方の設定温度よりも低い温度が設定される。一方、冷房季節においては、エネルギーの節約のため、日中（通常、家族が外出している時間帯）及び就寝時は、起床時や家族が自宅で団欒する夕方の設定温度よりも高い温度が設定される。

HSPF：通常の年間の使用期間におけるセントラルエアコンヒートポンプの全暖房量（Btu）を、その期間に投入される電力量（Wh）で割ったもの（年間の平均効率）。

SEER：通常の年間の使用期間におけるセントラルエアコンの全冷房量（Btu）を、その期間に投入される電力量（Wh）で割ったもの（年間の平均効率）。

冷房能力が 65,000Btu/h より小さい機器（主に家庭用機器）の場合に適用される。

EER：機器の冷暖房能力を定格消費電力で割った数値（冷暖房能力は Btu/h、定格消費電力は W 単位の数値を用いる）。これは日本の COP と同様の考え方だが、利用する

単位が異なり、COPに換算するには0.2931倍する(1Btu = 0.2931Wh)。例えばEER=10.0→日本のCOP=約2.93になる。

AFUE, Caafue : ある機器を使用したときの暖房能力と年間燃料消費量の比で示される。Caafueは複数の機能(暖房と給湯等)がある場合の単位であり、暖房能力及び給湯能力に対する年間燃料消費量の比で示したもの。

機種	分類		指標 1	基準値 1	指標 2	基準値 2	備考
天井扇	ファン速度：低速		最小風量 (ft ³ /分)	1,250 以上	風量効率 (ft ³ /分 W)	155 以上	・下向きの風向きで作動する場合、風量及び風量効率に関して左記の必要条件を満たすか、もしくは上回る必要がある。
	ファン速度：中速			2,500 以上		110 以上	
	ファン速度：高速			5,000 以上		75 以上	
	スイッチ遠隔操作制御		床からの高さ	80 インチ以下	—	—	・明かりとファンは別々に制御できる必要がある。
	照明		ピン取付式	住宅用照明器具のエネルギースター基準(表 3.15 参照)。	—	—	・スクリー取付式の電球の数を、家庭用天井扇本体もしくはパッケージに示す必要がある。
スクリー取付式			エジソン規格(照明器具のソケット部に関する標準規格であり、ソケットのねじ山の高さ、数などを規定)	—	—		
ファーネス	—		AFUE	90%以上	—	—	・AFUE (Annual Fuel Utilization Efficiency : 年間燃料使用効率)
小型業務用冷暖房機	セントラルエアコンディショナ	空気熱源(三相) (冷暖房能力が 65,000 Btu/h 以下)	SEER	12 以上	SEER	13 以上 (2004 年 1 月以降)	・IPLV (Integrated Part-Load Value : 統合部分負荷値) ・HSPF (Heating Seasonal Performance Factor : 暖房期性能係数) ・SEER (Seasonal Energy Efficiency Ratio : 季節エネルギー消費効率) ・EER (Energy Efficiency Ratio : エネルギー消費効率) ・COP (Coefficient of Performance : 性能係数)
		空気熱源 (冷暖房能力が 65,000Btu/h 以上 135,000Btu/h 以下)	EER	11.0 以上 (IPLV : 11.4 以上)	—	—	
		空気熱源 (冷暖房能力が 135,000Btu/h 以上 250,000Btu/h 以下)	EER	10.8 以上 (IPLV : 11.2 以上)	—	—	

機種	分類		指標 1	基準値 1	指標 2	基準値 2	備考	
小型業務用冷暖房機	ヒートポンプ	空気熱源(三相) (冷暖房能力が 65,000 Btu/h 以下)	SEER	12 以上	SEER	13 以上 (2004 年 1 月以降)	<ul style="list-style-type: none"> • IPLV (Integrated Part-Load Value : 統合部分負荷値) • HSPF (Heating Seasonal Performance Factor : 暖房期性能係数) • SEER (Seasonal Energy Efficiency) Ratio : 季節エネルギー消費効率 • EER (Energy Efficiency Ratio : エネルギー消費効率) • COP (Coefficient of Performance : 性能係数) 	
			HSPF	7.6 以上	HSPF	7.7 以上 (2004 年 1 月以降)		
		空気熱源 (冷暖房能力が 65,000Btu/h 以上 135,000Btu/h 以下)	EER	10.1 以上 (IPLV : 10.4 以上)	—	—		
			COP	3.2 以上	—	—		
		空気熱源 (冷暖房能力が 135,000Btu/h 以上 250,000Btu/h 以下)	EER	9.3 以上 (IPLV : 9.5 以上)	—	—		
			COP	3.1 以上	—	—		
	暖房機能 (ガス)と 冷房機能 (電気)を 持つ一体型 ユニット	空気熱源(三相) (冷暖房能力が 65,000 Btu/h 以下)	SEER	12 以上	SEER	13 以上 (2004 年 1 月以降)		
			空気熱源 (冷暖房能力が 65,000Btu/h 以上 135,000Btu/h 以下)	EER	11.0 以上 (IPLV : 11.4 以上)	—		—
			空気熱源 (冷暖房能力が 135,000Btu/h 以上 250,000Btu/h 以下)	EER	10.8 以上 (IPLV : 11.2 以上)	—		—
地熱源ヒートポンプ	閉ループ方式 (加熱システム有り)	EER	14.1 以上	COP	3.3 以上	<ul style="list-style-type: none"> • EER (Energy Efficiency Ratio : エネルギー消費効率) • COP (Coefficient of Performance : 性能係数) 		
	閉ループ方式 (総合温水供給システム有り)		14.1 以上		3.3 以上			
	開ループ方式 (加熱システム有り)		16.2 以上		3.6 以上			
	開ループ方式 (総合温水供給システム有り)		16.2 以上		3.6 以上			
	直接拡大方式 (加熱システム有り)		15.0 以上		3.5 以上			
	直接拡大方式 (総合温水供給システム有り)		15.0 以上		3.5 以上			

換気扇	レンジカバー付きのファン (500 ft ³ /分以下)	SONE	4.0 以下	換気効率 (ft ³ / 分 W)	2.8 以上	・ SONE : 音の単位 1 SONE は, 40 デシベルで 1Hz を基本信号とした場合の音の大きさである。
	浴室・部屋のファン (1~75 ft ³ /分)		2.0 以下		1.4 以上	
	浴室・部屋のファン (76 ft ³ /分以上)		1.5 以下		2.8 以上	

AFUE : ある機器を使用したときの暖房能力と年間燃料消費量の比を示したもの。

HSPF : 通常の年間の使用期間におけるセントラルエアコンヒートポンプの全暖房量 (Btu) を, その期間に投入される電力量 (Wh) で割ったもの (年間の平均効率)。

SEER : 通常の年間の使用期間におけるセントラルエアコンの全冷房量 (Btu) を, その期間に投入される電力量 (Wh) で割ったもの (年間の平均効率)。冷房能力が 65,000Btu/h より小さい機器 (主に家庭用機器) の場合に適用される。

IPLV : SEER とほぼ同様の意味を持つエネルギー効率の指標 (冷房能力が 65,000Btu/h 以上の機器 (主に商用機器) の場合に適用される)。

COP : 冷暖房モードでのエネルギー効率であり, 入力電力に対する冷暖房容量を表す。

EER : 機器の冷暖房能力を定格消費電力で割った数値 (冷暖房能力は Btu/h, 定格消費電力は W の単位の数値を用いる)。これは日本の COP と同様の考え方だが, 利用する単位が異なり, COP に換算するには 0.2931 倍する (1Btu = 0.2931Wh), 例えば EER=10.0 → 日本の COP=約 2.93 になる。

表 3.10 消費者電子機器の基準値

機種	分類		モード	基準値 1 (第 1 段階)	基準値 2 (第 2 段階)	備考
テレビ	—		待機モード	3W以下	1W以下 (アナログ) 3W以下 (デジタル)	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 段階は 2004/7/1 から有効。 2005/7/1 からは 1Wに統一。
ビデオ	—		待機モード	4W以下	1W以下	
テレビモニタ	—		待機モード	1W以下 (アナログ) 3W以下 (デジタル)	1W以下 (アナログ) 3W以下 (デジタル)	
コンポーネント/テレビ一体型ユニット	—		待機モード	3W以下	3W以下	
テレビ/ビデオ一体型ユニット	—		待機モード	6W以下	6W以下	
テレビ/DVD, ビデオ/DVD及びテレビ/ビデオ/DVD一体型ユニット	—		待機モード	4W以下	4W以下	
家庭用オーディオ	—		待機モード	2W以下	1W以下	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 段階は 2002/12/31 以降に出荷された製品を対象。
DVD	—		待機モード	3W以下	1W以下	
セットトップボックス	カテゴリ 1	アナログケーブルテレビのセットトップボックス, 高度なアナログケーブルテレビのセットトップボックス, デジタルケーブルテレビのセットトップボックス・インターネットアクセス装置, ビデオゲームコンソールテレビ電話のセットトップボックス, ケーブル・モデムを備えたセットトップボックス (低電力)	待機/低電力モード	3W以下	7W以下 (衛星システムの場合は 5W を加える)	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 段階は 2003/12/31 以降に出荷された製品を対象。

機種	分類		モード	基準値 1 (第 1 段階)	基準値 2 (第 2 段階)	備考
セットトップボックス	カテゴリ 2	デジタルケーブルテレビのセットトップボックス, 衛星テレビのセットトップボックス, 無線テレビのセットトップボックス, 個人のビデオテープレコーダー	待機/低電力モード	15W以下 (衛星システムの場合は5Wを加える)	7W以下 (衛星システムの場合は5Wを加える)	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 段階は 2003/12/31 以降に出荷された製品を対象。
	カテゴリ 3	多機能機器(デジタルケーブルテレビのセットトップボックス, 衛星テレビのセットトップボックス, 無線テレビのセットトップボックス, 個人ビデオのテープレコーダーにインターネット接続機能やテレビゲーム等の1つ以上の機能を物理的に追加した機器)	待機/低電力モード	20W以下 (衛星システムの場合は5Wを加える)		
電話	コードレス電話, 留守番電話	ノーマル	待機モード	3.3 W 以下	1.0W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 段階は, 2004/1/1 以降に出荷された製品を対象。 SST (Spread Spectrum Technology): スペクトル拡散技術: 表 3.4 の「電話」参照)
		SST 付き	待機モード	3.6 W 以下	1.5W 以下	
	コードレス電話/留守番電話一体型ユニット	ノーマル	待機モード	4.0 W 以下	1.0W 以下	
		SST 付き	待機モード	3.6 W 以下	2.0W 以下	

表 3.11 オフィス機器の基準値

機種	分類		モード1	基準値1	モード2	基準値2	備考
コンピュータ	Aタイプ*1	最大定格電力（連続） ≤ 200W	スリープモード	15W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		200W < 最大定格電力（連続） ≤ 300W	スリープモード	20W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		300W < 最大定格電力（連続） ≤ 350W	スリープモード	25W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		350W < 最大定格電力（連続） ≤ 400W	スリープモード	30W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		最大定格電力（連続） > 400W	スリープモード	最大定格電力（連続）の 10% 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
	Bタイプ*2	スリープモード	最大定格電力（連続）の 15% 以下	—	—	・移行時間：30 分以下	
	オールインワンシステム		スリープモード	35W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
ディスプレイ	—		低電力モード	15W 以下	ディープスリープモード	8W 以下	
複写機	低速標準	複写速度：0 < cpm ≤ 20	低電力モード	問わない	オフモード	5W 以下	・低電力への移行時間：問わない ・低電力からの復帰時間：問わない ・オフモードの移行時間：30 分以下
	中速標準	複写速度：20 < cpm ≤ 44		3.85 × cpm + 5 W 以下		15W 以下	・低電力への移行時間：15 分以下 ・低電力からの復帰時間：30 秒以下 ・オフモードの移行時間：60 分以下
	高速標準	複写速度：44 < cpm		3.85 × cpm + 5 W 以下		20W 以下	・低電力への移行時間：15 分以下 ・低電力からの復帰時間：30 秒以下（推奨） ・オフモードへの移行時間：90 分以下

* cpm (copies per minute) : 1 分間当たりの複写枚数

*1 ネットワーク上で使用できる機能を持って出荷されるコンピュータであって、低電力モードの状態、低電力モード移行前と同一のネットワーク対応が可能なコンピュータ。

*2 ネットワーク機能の維持のためにプロセッサ等の稼働が必要となるコンピュータ。

機種	分類		モード1	基準値1	モード2	基準値2	備考
複写機	低速大判	複写速度：0 < cpm ≤ 40	低電力モード	問わない	オフモード	10W 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低電力への移行時間：問わない ・低電力からの復帰時間：問わない ・オフモードの移行時間：30 分以下
	中高速大判	複写速度：40 < cpm		3.85 × cpm + 5 W 以下		20W 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・低電力への移行時間：15 分以下 ・低電力からの復帰時間：30 秒以下（推奨） ・オフモードの移行時間：90 分以下
<ul style="list-style-type: none"> ・プリンタ ・ファクシミリ ・プリンタ／ファクシミリ兼用機 ・郵便機械 	プリンタ及びプリンタ／ファクシミリ兼用機（A3, A4等サイズに対応）	印刷速度：0 < ppm ≤ 10	スリープモード	10W 以下	—	—	・移行時間：5 分以下
		印刷速度：10 < ppm ≤ 20		20W 以下	—	—	・移行時間：15 分以下
		印刷速度：20 < ppm ≤ 30		30W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		印刷速度：30 < ppm ≤ 44		40W 以下	—	—	・移行時間：60 分以下
		印刷速度：44 < ppm		75W 以下	—	—	・移行時間：60 分以下
	インパクト方式プリンタ（A3 サイズ対応）	—	スリープモード	28W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
	大型／大判プリンタ（A2 サイズ等又はそれ以上対応）	印刷速度：0 < ppm ≤ 10	スリープモード	35W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		印刷速度：10 < ppm ≤ 40		65W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		印刷速度：40 < ppm		100W 以下	—	—	・移行時間：90 分以下
	カラープリンタ（A3, A4 等サイズに対応）	印刷速度：0 < ppm ≤ 10	スリープモード	35W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
		印刷速度：10 < ppm ≤ 20		45W 以下	—	—	・移行時間：60 分以下
		印刷速度：20 < ppm		70W 以下	—	—	・移行時間：60 分以下
	独立ファクシミリ（主として A4 サイズに対応）	印刷速度：0 < ppm ≤ 10	スリープモード	10W 以下	—	—	・移行時間：5 分以下
		印刷速度：10 < ppm		15W 以下	—	—	・移行時間：5 分以下
	郵便機械	印刷速度：0 < ppm ≤ 50	スリープモード	10W 以下	—	—	・移行時間：20 分以下
		印刷速度：50 < ppm ≤ 100		30W 以下	—	—	・移行時間：30 分以下
印刷速度：100 < ppm ≤ 150		50W 以下		—	—	・移行時間：40 分以下	
印刷速度：150 ≤ ppm		85W 以下		—	—	・移行時間：60 分以下	

* ppm (prints per minute) : 1 分間当たりの印刷枚数

機種	分類		モード1	基準値1	モード2	基準値2	備考
複合機（速度による分類）	パーソナル	複合機速度： $0 < \text{ipm} \leq 10$	低電力モード	該当せず	スリープモード	25W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：15分以下
	低速	複合機速度： $10 < \text{ipm} \leq 20$		該当せず		70W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：30分以下
	中速	複合機速度： $20 < \text{ipm} \leq 44$		$3.85 \times \text{ipm} + 50\text{W}$ 以下		80W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：あり スリープモードへの移行時間：60分以下
	中/高速	複合機速度： $44 < \text{ipm} \leq 100$	低電力モード	$3.85 \times \text{ipm} + 50\text{W}$ 以下	スリープモード	95W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：推奨される スリープモードへの移行時間：90分以下
	高速	複合機速度： $100 < \text{ipm}$	低電力モード	$3.85 \times \text{ipm} + 50\text{W}$ 以下	スリープモード	105W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：推奨される スリープモードへの移行時間：120分以下
複合機（用紙による分類）	標準	複合機速度： $0 < \text{ipm} \leq 40$	低電力モード	該当せず	スリープモード	70W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：30分以下
	大判	複合機速度： $40 < \text{ipm}$	低電力モード	$4.85 \times \text{ipm} + 50\text{W}$ 以下	スリープモード	105W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：推奨される スリープモードへの移行時間：90分以下

* ipm (images per minute) : 1分間当たりの出力枚数

機種	分類		モード1	基準値1	モード2	基準値2	備考
複合機（拡張機能付きデジタル複写機）	パーソナル	速度：0<ipm≤10	低電力モード	該当せず	スリープモード	5W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：15分以下
	低速	速度：10<ipm≤20		該当せず		5W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：30分以下
	中速	速度：20<ipm≤44		3.85×ipm+5 W 以下		15W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：あり スリープモードへの移行時間：60分以下
	中/高速	速度：44<ipm≤100		3.85×ipm+5 W 以下		20W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：推奨される スリープモードへの移行時間：90分以下
	高速	速度：100<ipm		3.85×ipm+5 W 以下		20W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：推奨される スリープモードへの移行時間：120分以下
	標準	速度：0<ipm≤40	低電力モード	該当せず	スリープモード	65W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間（30秒）：該当せず スリープモードへの移行時間：30分以下
	大判	速度：40<ipm		4.85×ipm+45W 以下		100W 以下	<ul style="list-style-type: none"> 低電力からの復帰時間：該当せず スリープモードへの移行時間：90分以下
スキャナ	—	—	低電力モード	12W 以下	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 低電力モードへの移行時間：15分以下

* ipm (images per minute) : 1分間当たりの出力枚数

表 3.12 照明器具の基準値 (蛍光灯)

項目		基準値	
大項目	小項目		
光学的性能	裸電球	15W 未満	45(lm/W)以上
		15W 以上	60(lm/W)以上
	カバー付電球	15W 未満	40(lm/W)以上
		15W 以上 19W 未満	48(lm/W)以上
		19W 以上 25W 未満	50(lm/W)以上
		25W 以上	55(lm/W)以上
	反射器付電球	20W 未満	33(lm/W)以上
		20W 以上	40(lm/W)以上
	1,000 時間経過後の光束維持率		少なくとも最初の 100 時間に対して 90%以上。
	演色係数		演色係数 (Color rendering index) の平均が 80.0 以上。
関連色温度		2,700K 以上 3,000K 以下。それ以外の場合はパッケージに製品の色及び温度を明示する必要がある。	
光束維持率		定格寿命の 40%時において、最初の 100 時間に対して 80% 以上 (ANSI C78.5, Clause 4.10 (4.10 節) に従う)。	
電気性能	力率		0.50 以上
	立上り時間		3 分以下 (ANSI C78.5, Clause 3.11 及び 4.8 (3.11 及び 4.8 節) に従う)。
	起動時間		電源を入れてからフルスタートするまで 1 秒以内とする。
	短絡 (回路ショート) 保護		ANSI/IEEE C62.41, Category A に従う (7 ストライクメッキを行う (メッキの方法の一つ))。
	動作周波数		40.0 kHz 以上
	電磁妨害		FCC 47 CFR Part 18 に従う。
	ベース(取り付け部サイズ)		E26/24 型
	起動温度		ANSI C78.5, Clause 4.7 (4.7 節) の起動時間を満たすための最小起動温度もしくは使用地域の地理的条件、その他の条件を明記する必要がある。
	制御装置との適合性		フォトコントロール、調光器、タイミングデバイス等との不適合性が既知の場合は、それをパッケージに明示する必要がある。
寿命	保証		購入日から最低 12 か月間。
	ラベル		英語、もしくは英語付の他言語で表示する。
	高周期耐久試験		5 分間周期で負荷試験を行う (5 分 ON, 5 分 OFF)。
	中間寿命試験 (試験期間を定格寿命の 40%までとして規定)		定格寿命の 40%時の時間で、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 個失敗の場合は許容される。 ・ 2 個失敗の場合はその原因を説明する必要がある。 ・ 3 個失敗した場合は、直ちに試験のリストから削除する。
	平均定格寿命		製造事業者はパッケージに、6,000 時間以上であることを明記する。統計的方法を用いて、定格寿命の 80%の性能を満たしているか確認する。

lm : lumen (光束の単位)

ANSI : American National Standards Institute (米国規格協会)

IEEE : Institute of Electrical and Electronics Engineers (米国電気電子学会)

FCC : Federal Communications Commission (連邦通信委員会)

CFR : Code of Federal Regulations (連邦規制コード)

K : 絶対温度 (ケルビン温度)

演色係数 : 太陽光の下で見た場合とどの程度同じ色 (色度) に見えるかを示す指標である。この数値が 100 に近い照明機器ほど、太陽光の場合に近い色で見ることができる。

関連色温度 : 照明の色を温度で示す指標 (単位は K(ケルビン))。

光束 : 光源から単位時間当たりに発散される放射エネルギーを視覚で示す量 (単位はルーメン)。

光束維持率 : 定格の光束に対して経年劣化した場合にどれだけ光束を保っているかを示す割合。

力率 : 入力電力に対し有効利用される電力の割合 (交流の場合、無効になる電力が発生するため)。

立上り時間：スイッチをいれてからランプが定格の照度の80%になるまでの時間。
 動作周波数：蛍光灯が作動する周波数。
 高周期耐久試験：急激と連続的な負荷の耐久試験。
 平均定格寿命：抽出したサンプルの寿命試験により算定した製品の平均寿命。

表 3.13 照明器具の基準値（非常口標識）

特性分類	特性	基準値
エネルギー効率特性	入力電力需要	1面当たり5Wまたはそれ以下。
可視特性	文字サイズ，レタースペース	表示は"EXIT"もしくは他の適切な表現で，少なくとも高さ6インチ，字幅3/4インチ以上であり，明瞭で見やすいものとする。
	輝度	0.8以上。
	平均輝度	視角0°，45°において15cd/m ² 以上。
	最小輝度	視角0°，45°において8.6cd/m ² 以上。
	最小輝度に対する最大輝度割合	視角0°，45°において最小輝度に対して20:1の割合である。

cd：カンデラ（光度の単位）

表 3.14 交通信号機エネルギー効率基準値*1

モジュールの種類		最大時消費電力 (74℃時)*2	通常時消費電力 (25℃時)*2
大分類	小分類		
矢印信号を含むLED（発光ダイオード）交通信号機	12インチ赤球型	17W以下	11W以下
	8インチ赤球型	13W以下	8W以下
	12インチ赤矢印型	12W以下	9W以下
	12インチ緑球型	15W以下	15W以下
	8インチ緑球型	12W以下	12W以下
	12インチ緑矢印型	11W以下	11W以下
歩行者用LED（発光ダイオード）交通信号機	進行信号	12W以下	9W以下
	停止信号	16W以下	13W以下

*1 表中の信号機はITE（Institute of Transportation Engineers：輸送工業協会）規格の最小性能基準を満たすものとする。表における消費電力の基準は信号機全体ではなく，各モジュールにおいて満たす必要がある。また，これらの水準はLED回路に必要な電力を含むものとする。

*2 交通信号機は常時通電状態で使用されるため，高温状態（74℃程度まで上昇すると思われる）になって消費電力が増加すると考えられる。このため，通常時（平均気温を25℃に設定）と高温状態（74℃を設定）での消費電力の基準値を設定していると考えられる。

表 3.15 照明器具の基準値（室内用照明器具）

性能特性		基準値
運用特性	照明一体型ユニットごとのシステム効率	<ul style="list-style-type: none"> ・30未満台数で抽出したすべての器具のランプが46lm/W以上とする。 ・24インチ以下で30未満台数の抽出したすべての器具のランプが60lm/W以上とする。 ・24インチ以上で30未満台数の抽出したすべての器具のランプが70lm/W以上とする。
	ランプ起動時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ランプのスイッチを入れた後、持続的に起動して点灯状態を維持するために必要な時間は、平均1秒以下にする必要がある。
	ランプ寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・ランプ付きで出荷される照明器具について、ランプの平均定格寿命は10,000時間以上必要。 ・ランプなしで出荷されるものについては、基準に適合するランプのリストを付帯する。このリストは、消費者に判りやすいように器具の梱包に明示する。 ・製造事業者は、特定の製造事業者名及び型番を提供する必要はない。例えばNEMAやANSIによる一般的記述でよい。
	演色係数	<ul style="list-style-type: none"> ・小型蛍光灯において80以上。 ・直線型蛍光灯において75以上。
	関連色温度	<ul style="list-style-type: none"> ・ランプ付きで出荷される照明器具において、定格色温度が2,700～3,000Kではない器具には、包装に製品の色(暖色系か寒色系)を明示し、その使用目的を示す。 ・ランプなしで出荷されるものについては、基準に適合するランプのリストを付帯する。このリストを、消費者に分かりやすいように器具の梱包に明示する。 ・製造事業者は、包装において特定の製造事業者名及び型番を示す必要はない。例えばNEMAやANSIによる一般的記述でよい。
	ノイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・電磁石及び電子安定器の評価はClass Aとする。 ・周囲のノイズが20デシベルを超えない室内で測定した際に、24デシベルを上回らない。
	製品保証	<ul style="list-style-type: none"> ・保証書には、購入日から2年間、欠陥のある取り付け部品や電子部品の交換・修理を含む必要がある。
	減光	<ul style="list-style-type: none"> ・最大照明出力の30%～100%、またはそれ以下に減光が可能であること。または3つの光度レベルへの切替えをすることが可能であること。
	耐久性	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、検討段階。
	安全性	ポータブル蛍光灯
固有蛍光灯		<ul style="list-style-type: none"> ・安全性試験報告書あるいは製品説明書等には、UL 1598に適合していることを示す必要がある。
安定器及び蛍光灯アダプタ（エジソン規格以外）		<ul style="list-style-type: none"> 安全性試験報告書あるいは製品説明書等には、次のいずれかに適合していることを示す必要がある。 ・ANSI/UL 935 ・UL 1993

lm : lumen (光束の単位)

NEMA : National Electrical Manufacturers Association (米国電機工業会)

ANSI : American National Standards Institute (米国規格協会)

UL : Underwriting Laboratory (米国保険事業者安全試験所)

演色係数：太陽光の下で見た場合とどの程度同じ色（色度）に見えるかを表す指標である。この数値が100に近い照明機器ほど、太陽光の場合に近い色で見ることができる。

関連色温度：照明の色を温度で示した指標（単位はK(ケルビン)）。

エジソン規格：照明器具のソケット部に関する標準規格であり、ソケットのねじ山の高さ、数等を規定。

性能特性		基準値
電子安定器の性能特性	一般	ANSI C82.11 の Section 5 (Paragraph 5.3.1 を除く) に従う。
	力率	0.5 以上。
	ランプの電流波高率	1.7 以下。
	最大ケース温度	90℃または安定器製造事業者が要求する温度以下。
	電磁気及び無線周波数妨害	安定器は、消費者用途に応じた FCC の基準に従う。
	安定周波数	次のいずれかを満たす必要がある。 ・ 20～33kHz ・ 40kHz 以上
	短絡（回路ショート）保護	ANSI C82.11b, Paragraph 5.10.1 に従う。
	ランプ寿命保護	・ すべての T5（外径 15.5mm の蛍光ランプ）及びさらに小さいランプのための基準。 ・ 製造事業者は、安定器内部での目的を達成した工学的計画概要の記述またはテスト試験データを提出する必要がある。
磁気安定器の性能特性	一般	ANSI C82.1 Section 5 に従う (Paragraph 5.3.1 及び 5.3.2.1 を除く)。
	ランプの電流波高率	1.7 以下。
	保護ケースの最大温度	・ 90℃以下 ・ 安定器製造事業者の指定する温度が 90℃以下の場合は、その指定値。
	電磁気無線周波数妨害	適用なし。
	安定周波数	60Hz
	非常時保護	適用なし。
	ランプ寿命保護	適用なし。

ANSI : American National Standards Institute (米国規格協会)

UL : Underwriting Laboratory (米国保険事業者安全試験所)

FCC : Federal Communications Commission (連邦通信委員会)

力率 : 入力電力に対し有効利用される電力の割合 (交流の場合、無効になる電力が発生するため)。

電流波高率 : ピーク電流値に対する平均電流値の比率。

電磁気無線周波数妨害 : 機器が発生する電磁波による無線への障害 (雑音等)。

ランプ寿命保護 : ランプの寿命時に無駄な電力を消費したり、火災防止のため電源供給を抑制する機能。

非常時保護 : 落雷、爆発等により電源設備が被害を受けた場合の機器保護に関する機能。

表 3.16 照明器具の基準値（屋外用照明器具）

以下の(1)、(2)のいずれかの基準を満たすことが必要である。

(1)照明のエネルギー効率の性能を主体にした基準

性能特性	基準値
最大入力	・ 150W
システム効率	・ 40lm/W 以上（ただし、ランプの消費電力 70W 以下のものを対象）。
ランプソケットの互換	・ 50lm/W 以上（ただし、ランプの消費電力 70～150W のものを対象）。
昼間の機能	・ 昼間の間は自動的に点灯しないように、光センサーがついていること。 ・ 手動モードあるいは試験モードで点灯させた場合、光センサーは 24 時間以内に、自動モードにリセットする必要がある。
停止	・ 制御回路により、昼光時間に自動停止する。 ・ 個別の光電管なしに販売する器具は、「この製品は光電管制御回路を取り付けた場合にのみ、エネルギースターに適合する。」と表記する必要がある。
保証	・ 購入日から 2 年間、器具外被及び電子部品の欠陥品の修理及び交換を保証する。 ・ 保証書を器具に付ける。
安全性	・ NFPA70(NEC)に従う。

lm : lumen (光束の単位)

NFPA : National Fire Protection Association (米国防火協会)

NEC : National Electrical Code (米国電気コード)

(2)照明の稼働時間の低減化を主体にした基準

性能特性	基準値
最大入力	・ 250W
昼間の機能	・ 昼間の間は自動的に点灯しないように、光センサーが付いていること。 ・ 手動モードあるいは試験モードで点灯させた場合、光センサーは 24 時間以内に自動モードにリセットする必要がある。
停止	・ 器具はモーションセンサーを含む必要がある。 ・ モーションセンサーは、スイッチによる手動起動または自動起動時から 15 分以内にランプを自動停止させる必要がある。
保証	・ 購入日から 2 年間、器具外被及び電子部品の欠陥品の修理及び交換を保証する。 ・ 保証書を器具に付ける。
安全性	・ NFPA70(NEC)に従う。

NFPA : National Fire Protection Association (米国防火協会)

NEC : National Electrical Code (米国電気コード)

モーションセンサー: 赤外線等により人の動きや気配を感知するセンサーであり、人感センサーとも呼ばれる。

表 3.17 その他機器の基準値（冷水機、変圧器、屋根製品、窓／ガラス張りドア／天窓製品）

機種	分類	指標 1	基準値 1	指標 2	基準値 2	備考
冷水機	冷水のみ	1日当たりの消費電力量	0.16kWh/日以下	—	—	・1日当たりの消費電力量を規定。
	料理／飲料用冷水機			—	—	
	冷温水機		1.20kWh/日以下	—	—	
屋根製品	エネルギー効率		信頼性			<ul style="list-style-type: none"> ・反射性屋根製品に対する保証。 ・非反射性屋根製品に対する保証は、物理的には反射性屋根製品に対する保証と同じにする必要がある。ただし反射性屋根製品しか販売しない会社は、標準的な非反射性屋根製品の保証と同じにする必要がある。 ※太陽光反射率の維持値については、標準状態で製品設置後 3 年の値とする。
	低勾配屋根製品	太陽光反射率の初期値	0.65 以上	材料、製造過程における欠陥に対する製造事業者保証	—	
		太陽光反射率の維持値	0.50 以上※			
	急勾配屋根製品	太陽光反射率の初期値	0.25 以上			
太陽光反射率の維持値		0.15 以上※				
変圧器 (商工業用)	単相 (15kVA)	効率 (%)	97.7 以上	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・1,000V 以下の低電圧用の変圧器を対象とする。 ・効率値（変圧前の電力から変圧時の電力損失を差し引いたもの：%）は、周囲温度が 75℃、定格出力に対する負荷率が 35%である場合の値。
	単相 (25kVA)		98.0 以上	—	—	
	単相 (37.5kVA)		98.2 以上	—	—	
	単相 (50kVA)		98.3 以上	—	—	
	単相 (75kVA)		98.5 以上	—	—	
	単相 (100kVA)		98.6 以上	—	—	
	単相 (167kVA)		98.7 以上	—	—	
	単相 (250kVA)		98.8 以上	—	—	
	単相 (333kVA)		98.9 以上	—	—	
	三相 (15kVA)		97.0 以上	—	—	
	三相 (30kVA)		97.5 以上	—	—	
	三相 (45kVA)		97.7 以上	—	—	
	三相 (75kVA)		98.0 以上	—	—	
	三相 (112.5kVA)		98.2 以上	—	—	
	三相 (150kVA)		98.3 以上	—	—	
	三相 (225kVA)		98.5 以上	—	—	
	三相 (300kVA)		98.6 以上	—	—	
	三相 (500kVA)		98.7 以上	—	—	
	三相 (750kVA)		98.8 以上	—	—	
三相 (1000kVA)	98.9 以上	—	—			

窓／ガラス張りドア	北部地域	Uファクター	0.35 以下	SHGC	なし	(1)Uファクター（単位：BTU/(ft ² ・h・F)） ・窓の断熱性能を表す数値。 ・断熱性の評価は U ファクターの逆となる R ファクターにより表示される。 ・U ファクターが低いほど窓の熱伝達に対する抵抗が強くなり、断熱性が高くなる。 (2)SHGC（Solar Heat Gain Coefficient：太陽熱利得係数） ・SHGC は建築物が太陽からどれほど熱を得ているか測定して得られる。 ・SHGC が低いほど太陽から得る熱が少ない。
	中部地域		0.40 以下		0.55 以下	
	南部地域		0.75 以下		0.40 以下	
天窓製品	北部地域		0.45 以下		なし	
	中部地域		0.45 以下		0.55 以下	
	南部地域		0.75 以下		0.40 以下	

北部：アラスカ，ワシントン，オレゴン，ユタ，ネバダ（一部），モンタナ，ワイオミング，ミネソタ，ウイスコンシン，ミシガン，ニューヨーク，メイン州等を含む。

中部：カリフォルニア（一部），ネバダ（一部），オクラホマ，ミズーリ，イリノイ，テネシー，オハイオ，バージニア，ノースキャロライナ，ジョージア州（一部）等を含む。

南部：カリフォルニア（一部），アリゾナ（一部），テキサス，ルイジアナ，ミシシッピ（一部），アラバマ，ジョージア州（一部），フロリダ州等を含む。